2011.02

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

VOL. 08

2011.1月中旬　西の湖のヨシ原

いよいよ本格的なヨシ刈りシーズンとなりびわ湖各地でヨシ刈りが始まっています。
今年は年初から厳しい寒さとなりヨシ原と雪景色はまた格別に美しいものです。

まめちしき

みなさんびわ湖に棲むホンモロコという魚をご存じですか。料亭などで出されるびわ湖の名物料理として珍重されている魚です。

ホンモロコはびわ湖固有の魚で、春には大群で湖岸や内湖、水路に押し寄せ、ヤナギの根や水草、ヨシなどに産卵し、ふ化した稚魚はびわ湖沿岸域で生活するそうです。

平成6年以前は安定した漁獲量があったそうですが、それ以降急激に数を減しており、今や環境省の絶滅危惧種に指定されています。
減少の一因は、外来魚による卵、稚魚の捕食やびわ湖岸のコンクリート化によるヨシ原の減少などが考えられています。
県では、ホンモロコの回復を図るため稚魚の放流や産卵繁殖場となるヨシ原等の保全整備に取り組まれており、ヨシ原の大切さを感じずにはいられません。

びわ湖を知る■問題

口にひげがあるドジョウのなかまで岡山県とびわ湖淀川水系にのみ生息しており国の天然記念物にもなっている魚はどれですか。

① ビワヒガイ　② シマドジョウ
③ アユモドキ　④ ビワコオオナマズ

特集
1ページ

琵琶湖の魚にとっての「ふるさと」

多賀町立博物館　学芸員
金尾 滋史 様より

琵琶湖には、現在54種類の魚が生息していると言われています。このうち、在来種は44種で、その中にはビワコオオナマズ、ニゴロブナ、ビワマス、イサザといった世界でも琵琶湖にしかいない固有種も多く含まれています。これら固有種も含め琵琶湖に住む魚の生態は、まだあまり分かっていない部分も少なくありません。しかし、ほとんどの種類は繁殖期になると沿岸部のヨシ原や岩場、さらに琵琶湖に流れ込む川や周辺にある田んぼにやってきて産卵を行うことが知られており、そこが魚の「ふるさと」そして「ゆりかご」となっているのです。琵琶湖の魚にとってこのような沿岸部の環境はどのような意味があるのか紹介します。

【魚の「ふるさと」としてのヨシ原】

琵琶湖やその周辺にある内湖の湖岸には、ヨシを中心とした植生帯をいくらか見ることができます。
ヨシ自体は陸地と水辺の境界線付近に生えていることが多いのですが、このような場所は、大雨などによる増水で水位が上がるとそれまで陸地だった場所が冠水することがあります。（これを「一時的水域」や「水辺移行帯」といいます。）
植物の根や茎が水に浸かることで、卵を産みつける基質が豊富に存在するようになるほか、生まれた仔魚や稚魚の隠れ場、餌場となっているのです。
琵琶湖固有種のゲンゴロウブナやホンモロコなどはこのようなヨシ帯、そして、その陸地側にあるヤナギ林などの環境で産卵を行っており、魚の繁殖場所として重要な役割を果たしています。

『西の湖に広がるヨシ原』

『植生帯で育つフナ類の稚魚』

【魚の「ふるさと」としての田んぼ】

私が大学生のとき、ナマズやフナが琵琶湖から田んぼに上がってくる姿を見て、大きな衝撃を受けました。「田んぼは人間が作った環境なのに、なぜ魚がやってくるのだろ？」。この時の疑問が今でも私の主な研究テーマになっています。
フナやナマズの仲間は一時的水域で産卵をする習性があります。一方で田んぼという環境は、稲作のために潅漑期になると水を入れるため、それまで陸地だった場所が冠水したような場所になります。魚にとって田んぼのような環境は湖岸や川にできる一時的水域と同じに見えるのでしょう。
また、田植えが終わった田んぼではたくさんのプランクトンがでてきて、生まれた稚魚の絶好の餌となります。約1ヶ月程度ですが水がある期間、琵琶湖周辺の田んぼは多くの魚のゆりかごとなり、そこで育った稚魚が琵琶湖や川へと旅だっていくのです。そう考えると、田んぼは人間が作った環境ですが、いくらかの魚にとっては代替的な一時的水域の役割を果たしており、田んぼを利用する魚は人間の営みと共に繁栄してきたといえるでしょう。

『田んぼで産卵するニゴロブナ』

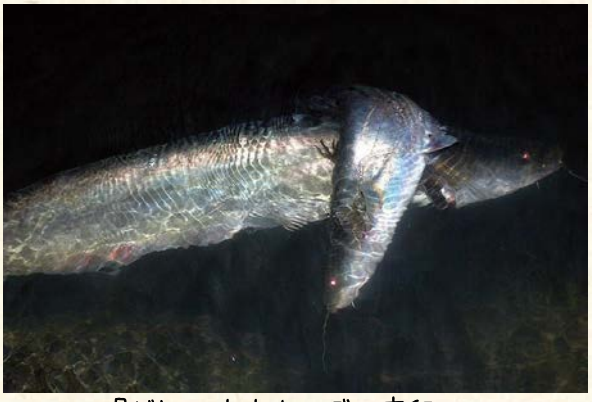
特集
2ページ

『川に遡上してきたアユ』

【魚の「ふるさと」としての河川】

琵琶湖には大小合わせると200を超える河川が注いでいます。その中でも規模の大きな河川の下流部には多くの魚が産卵のためにやってきます。春先のウグイに始まり、ニゴイ、オイカワ、ハス、アユ、ビワマス・・・。同じ場所でも、きちんと季節を分けてやってくるのです。

規模の大きな河川の川底は砂や小さな石が多く、これらの魚はその中に卵を隠すように産卵をします。そして、そこで生まれた仔魚はアユのようにすぐに琵琶湖へ下っていくものと、ビワマスのようにしばらく河川で過ごした後、琵琶湖へ下るものがあるようです。ヨシ原や田んぼとは、また異なった魚がこのように河川を使って繁殖しているといっても良いでしょう。



『ビワコオオナマズの産卵』

【魚の「ふるさと」としての岩場】

琵琶湖の東部や北部には、山が近く、大きな岩が点在している湖岸があります。このような場所では琵琶湖の主と呼ばれるビワコオオナマズをはじめ、イワトコナマズ、イサザ、ウツセミカジカなどが産卵を行なっています。

岩場はあまり他の種類が利用しないような環境なのですが、よく調べてみると琵琶湖の固有種が産卵場として使っていることが多いようです。

なかなか目に見る機会は多くありませんが、このような環境も琵琶湖の魚にとっては重要な場所となっています。

さて、琵琶湖に住んでいる魚がこれらの「ふるさと」へ帰り、その子孫たちが再び琵琶湖へ行くためには、いずれの場所も琵琶湖とつながっていなくてはいけません。しかし、開発や改修が進んだ現在、それぞれの産卵場所も、これらの場所へ行くための道も魚にとっては利用しにくい環境となっているのが現状です。このような環境は全く手付かずの自然ではなく、私たち人間活動と深い関わりをもって今日まで維持されてきたものであり、そこには、生活を通じた人間と生き物の関わりが残されているはずです。そういう意味では、魚の「ふるさと」は私たち人間にとっても「ふるさと」となる風景であると感じます。

近年、各地で魚の「ふるさと」や「ゆりかご」を復活させる取り組みも行なわれるようになってきました。このような取り組みを行なっていくと同時に琵琶湖をとりまく人と魚との関わり方を紐解くことが人と自然の付き合い方を考える一つのヒントになるのではないでしょうか。

みんなのリエデン

生活協同組合コープしが
CSR推進チーム
北村 源次郎 さまより

リエデンとコープしが

昨年の12月に初めてヨシ刈りに参加しました。東近江市の伊庭内湖というところです。
これまでヨシがびわ湖の水の浄化に役立っていることや、魚や野鳥の住みかになること、また、ヨシ刈りのボランティア活動が行われていることは知っていましたが、実際に参加することはありませんでした。でも、異動でCSR推進部署になり「環境」に関わるようになって、今回、参加させていただきました。
ヨシ刈りの当日は雨が心配されるような天候でしたが、地元の人を始め多くの企業の人や県外からの参加者もあり少々驚きました。
実際にヨシ刈りを始めると、遠目にはヨシばかりに見えていたのが、雑草も一緒に生えていて選り分ける作業がなかなか手間取りました。しかし、2時間もすると広い面積もきれいに刈り取られ、広い平らな地面が見えるようになりました。
寒い中、体は少々疲れましたが、びわ湖にちょっといいことをしたという満足感を味わうことができました。

ところで、コープしがの名刺ですが一般的な再生紙を使ったものが基本ですが、昨年から希望者は「ヨシ100%」の名刺を作ることができるようになりました。
もちろん私はヨシの名刺を選びましたが、でき上がって手元に届いたときに初めて「リエデン」の製品であることを知りました。コープが環境やびわ湖に取り組んでいることをアピールする1つとしてヨシの名刺が採用されたのですが、こんなところで出会うとは思っていませんでした。

リエデンは「地元にある素材を生かして、地元企業が製品化し、そして地元で使うことでびわ湖の環境に貢献する」という取り組みですが、考えてみればコープも粉石けんの普及など以前からびわ湖や環境問題に関わってきました。そして、組合員さんに供給する商品（野菜・米・卵など）は地産地消・地元でとれた商品を地元で消費するということを増やしていこうとしてます。
これって、「リエデン」の考え方に通じるものではないかと思いました。これからも、びわ湖や地元とのつながりを大切にした取り組みをおこなっていきたいと思っています。

コープしがさんのヨシ学習会の風景

ぱくぱく君（ｺｰﾌﾟしがｷｬﾗｸﾀｰ）と一緒にヨシ刈り

『ﾈｯﾄﾜｰｸ～ひと言』
****
北村さん有り難うございました。
リエデンもコープしがさんの活動も、地元の環境を良くしていこうという思いはいっしょですネ。
これからも仲間として、活動できればうれしいです。

ヨシ刈りボランティアに参加しました

２０１０年１２月１８日（土）
伊庭内湖のヨシ刈り

参加されたみなさんから たくさんの感想が届いています。

◆滋賀の住人として子どもがびわ湖を知る良い機会でした。
◆はじめてヨシ原を見ましたが、自分より背が高く一面に生えているのを見て感動しました。
◆けっこうハードですね！両足が「ずぽっ」といった時はめちゃくちゃ楽しくなりました。
◆環境活動をしている時の人間の輝きというのは格別のものがありますね。
◆日頃話しができなかった方々とゆっくりコミュニケーションがとれました。
◆ヨシの大きさに驚きました。これでヨシのイメージが出来ました。
◆自分たち以外の学生にも体験してほしいと強く思いました。
◆ぜひ、社内イントラで紹介したいと思います。
◆昨年よりもきれいなヨシが多く生えていて「やりがい」を感じることができました。
◆予想以上にハードでびっくりです。終わる頃にはヨシ原がなくなっていてまたびっくり。
◆たくさんの参加者できれいにすることが出来、達成感をあじわいました。
◆寒さも吹き飛び爽快な汗をかきました。
◆みんなで力を合わせる協働作業ってところがおもしろかった。

寒い一日でした。でも作業が始まると一心にヨシ刈りに集中。
おかげで寒さも忘れジャンパーを脱ぐ人も。
終了とともに心地よい疲れと達成感が心と体を包み込んでくれます。
多くの皆さんがこんな体験をされたのではないでしょうか？

※※　ぜひ、２月１３日　西の湖のヨシ刈りにもご参加ください。※※

『ネットワーク通信に参加しよう！』

皆さんの考える環境への思いやリエデンへのご意見などお聞かせ下さい。ネットワーク通信で広げていきましょう。

お待ちしています。　お知らせ

メンバーコーナー

びわ湖エコアイディア倶楽部へ（ＢＥＩＣ）ようこそ！

パナソニック㈱ホームアプライアンス社
環境推進グループ　歌代様より

びわ湖エコアイディア倶楽部は、パナソニック社の社員有志が運営する環境ボランティア団体です。
会員は約千人。草津市野路にある同社草津工場に拠点を置き、びわ湖の水質や生態系の保全を目指して、水環境に関連するボランティア活動に取り組んでいます。

《主たる活動は4つあります。》

◆ びわ湖湖岸の美化活動
毎年7月1日に開催される「びわ湖の日」に、社員有志が集まり清掃活動を行っています。

◆ ヨシ原の保全活動
草津市下物町の琵琶湖博物館の前に広がるヨシ原の保全のため、毎年1月末ごろヨシ刈りに参加しています。

◆ 水質調査及び水質マップづくり
会員がそれぞれの身近な河川や湖沼の水質（COD）を測定し、データを持ち寄って広域水質マップを作成しています。

◆ こどもエコクラブ「アイキッズ」の運営
草津工場近隣の小中学生と一緒に川やびわ湖、山や田んぼで水環境の観察や生き物の調査を行っています。活動を通じて得た発見や気づきを壁新聞やスライドにまとめ、家族や仲間、地域のみなさんに伝える活動に繋げています。

湖岸の美化活動

草津下物のヨシ刈り

アイキッズ狼川水質調査

身近な水環境の調査

活動の詳細を下記ホームページでお伝えしています。 ご覧ください。
※びわ湖エコアイディア倶楽部ブログ
http://blog.canpan.info/biwakoecoidea/
※アイキッズブログ
http://blog.canpan.info/i_kids/

編集後記

ネットワーク通信もはや1年が過ぎました。
そこで、通信をよりみなさまの身近な情報発信の場に広げていこうと思っています。
今回から『みんなのリエデン』コーナーを会員みなさまのお便り、ご意見、ご感想などを交えた紙面にしてみました。
「日ごろ感じておられるリエデンへの思い、ご意見」「ホットな話題」や写真などお寄せいただき、みなさまが参加できる通信にしていければと考えています。
ぜひ、みなさまが感じておられることを教えて下さい。
お話を聞かせていただきにお伺いします。

toshihiro_oota@kokuyo-shiga.jp

びわ湖を知る■解答

③ アユモドキ
名前のとおりアユに似ていますがドジョウの仲間です。
滋賀県では近年発見されておらず絶滅寸前だそうです。